

ホームの近況報告

介護職員 日野 仁志

「バルムなかにいだ」の職員として働いている日野と申します。平成19年の夏からお世話になって、1年7か月になります。これから、自己紹介を少しさせていただきますと思います。年齢は団塊の世代（昭和23年生まれ）で、昨年還暦を迎えましたが、自分ではまだまだ若いつもりであります。（気持ちだけかな？）趣味は月並みですが、読書とスポーツ観戦です。高校時代までは陸上部に所属していて、インターハイの県大会に投擲で出場したりしました。それから、球技がやるのも見るのも大好きで、草野球ですが、45歳過ぎまで投手としてプレーしておりました。現在は、専らテレビ観戦が主です。読書のほうは本当の乱読で、推理小説から時代小説、海外小説、何でも御座れで、図書館を利用して、常に10冊前後を手元に置いて読んでおります。高校時代には文芸部に所属して、同人誌に創作を載せたりしたこともありました。

家族は妻と、子供が息子2人と娘1人の5人で、それから、私の両親が仙台で暮らしております。学校を出てからは、家業である水産関連の卸売業（魚市場）に20年ほど携わっておりましたが、平成7年、47歳の時に会社を閉じて、その後、まったく畑違いの建設業の基礎工事の仕事に就きました。その会社を52歳でリストラされた後、職業訓練センターのばそこん室の講師、建設業の土工の仕事にも就きました。

介護の仕事に就くきっかけは、5年前に、父親が転んで頭を打って、急性硬膜下血腫で入院してから、アルツハイマー型認知症になり、少しずつ症状が進んで、母が自宅で介護するのを、週1回程度訪れてトイレ介助、衣服の着脱等を手伝うようにしていた際に、シルバー人材センターで2級ヘルパー講習を受講する機会があり、少しずつでも父親の介護の助けになればと資格を取得したことです。

その後、縁があって「バルムなかにいだ」にお世話になるようになり、現在にいたっております。最初の頃は、何もかもが慣れなくて失敗の連続で、管理者の方や、先輩職員の方に迷惑の掛け通しでした。今も、最初の頃よりは若干は良くなったと自負しておりますが、100%のケア、介護ができていくかどうかは、？が付くことが多いと思います。それでも、自分としては、不器用なので、教科書通りやマニュアル通りとはなかなか行かなくても、自分の肉親に接するように心掛け、入居者様がどんな気持ちで毎日を過ごしているかを知り、その気持ちを尊重して、居心地がよく安心して穏やかに暮らして頂けるように、努めていきたいと思っております。

毎日のように入居者様と接して、一番嬉しく思う

ことは、出退勤の際に、掛けて頂く言葉です。「お帰りなさい」「いってらっしゃい」と家族に対するように言っていただけると、つい頬が緩んで参りません。

これからも、グループホーム「バルムなかにいだ」の名前の「バルム(Warm)」意味の通り、「あったかい」「心のこもった」介護が出来るように心掛け、又、常に基本理念の「ゆったりと楽しく、安らぎのある暮らし」「自分でできる喜びと、いきがいのある暮らし」「地域の人々との交流を持ち、共に生きる暮らし」を念頭において、これからのケアを頑張っていく所存ですので、どうかよろしく願い申し上げます。

2月の行事

3日 節分 豆まき

鬼は-外！福は-内！年の数の豆はなかなか食べられませんね・・・。

9日 入居者N様 お誕生会

お誕生日おめでとうございます。元気でこれからもよろしく願います。

17日 マッサージボランティア

仙台から来てくださいます。入居者様にすごく好評です！！

27日 運営推進委員会

包括センターの方、区長さん、ご家族様代表で、話し合いました。

ありがとうございました。

